

感染症発生動向調査に基づく先天梅毒の届出のまとめ—2019年1月1日～2024年6月30日

公開日：2025年10月17日

国立感染症研究所 応用疫学研究センター

感染症サーベイランス研究部

2024年11月22日現在

梅毒は、性的接触で容易に感染する感染症で、近年男女ともに増加傾向にある¹⁾。梅毒は、妊婦が感染した場合、母子感染によって児に感染が伝播する先天梅毒のリスクがある。先天梅毒は、母体が無治療の場合40%の児が死に至る可能性のある重篤な疾患であり、特に10代から20代の女性における梅毒の報告数増加に伴い、先天梅毒も増加している（図1）。WHOは2030年までに80%の加盟国で梅毒の母子感染を10万出生当たり50例以下とする目標を掲げ対策に取り組んでいる。本国における2024年の報告数は10万出生あたり4.3例であり、指標を達成しているものの、出生数の減少に伴い10万出生あたりの報告数は増加している。今回、2021年1月1日から2024年6月30日までに感染症発生動向調査で報告された先天梅毒の届出状況についてまとめた。

本分析では、2024年11月22日に、感染症発生動向調査システムから、病型が先天梅毒であった梅毒症例を抽出した。また、母の感染症発生動向調査のIDの記載があった届出は、母の届出も分析に用いた。なお、先天梅毒の届出基準は、梅毒の届出基準と独立しており、3つの検査基準（ア：母体の血清抗体価に比して、児の血清抗体価が著しく高い場合、イ：児の血清抗体価が移行抗体の推移から予想される値を高く超えて持続する場合、ウ：児の*Treponema pallidum* (TP) を抗原とするIgM抗体陽性）のいずれかを満たすか、もしくは、エ：早期先天梅毒の症状を有する場合、又は、オ：晩期先天梅毒の症状を呈する場合とされている。

91例が分析対象に該当した（表1）。無症状症例が20%（18/91例）、届出時点の年齢は0歳0か月が93%（85/91例）であった。

届出数が10以上であった都道府県は、東京都、愛知県及び大阪府であった（図2）。各種届出基準への合致の分布は、ウが45例（49%）、エが70例（77%）と多く、イ及びオは共に0例（0%）であった（表2、重複あり）。

母親及び児のカルジオリピン抗体価の記載があった届出は43%（39/91例）、母親の感染症発生動向調査IDの記載があった届出は64%（58/91例）であった（表3）。なお、届出基準ウのみに合致するとして届け出られた症例は91例中14例（15%）であった。

先天梅毒の届出数は2021年20例、2022年20例、2023年37例であったが、届出に占める無症状症例の割合は、20%、35%、14%と推移していた。（図3）。

届出に何かしらの母親の情報が書いてある届出は 91 例中 80 例（88%）であり、妊婦検診受診有無や治療歴、年齢、出産週数、症状の有無、飛び込み出産・墜落分娩、性風俗産業従事歴、他の性感染症の合併などの情報が記載されていた（表 4）。治療歴については、児の届出では 11 例（12%）しか記載されておらず、母親の届出情報をたどっても 27 例（30%）と少なかった。また、母親の性風俗産業従事歴についても、母親の届出内容を含めると 34 例（37%）で記載があったが、児の届出のみでは 3 例（3%）と少なかった。

先天梅毒の届出基準は梅毒と異なるが、梅毒の病型の一つとして、梅毒と同一の届出様式によって届出される仕組みとなっており、先天梅毒については、いずれの届出基準を満たしたか、また母親の感染症発生動向調査 ID、児及び母親のカルジオリピン抗体価について、備考欄に記載するよう、先天梅毒の届出に関する手引き²⁾や感染症発生動向調査事業における届出の質向上のためのガイドラインで求めている。しかし、いずれの届出基準を満たしたかが明確に備考欄に記載されている届出は多くなかった。2023 年は 2021 年及び 2022 年と比較して総症例数が多かったにもかかわらず、2021 年 2022 年よりも無症状届出の割合が少なかった。このことから、2023 年は医療現場における無症状の先天梅毒を疑い診断する意識が低かった可能性があり、見逃されている無症状症例がある可能性が考えられた。関連研究報告書では、先天梅毒の届出漏れが生じている可能性が指摘されており、確認が難しい無症状症例の把握には、基準イが重要であり、児の経過観察と報告がしやすい体制が重要と考えられる。先天梅毒の予防については、一部の妊婦は妊娠中に梅毒を疑う症状が出現したが診断に結び付いていない現状があり³⁾母の診断や児の早期治療にとって、先天梅毒発生のリスクに関連する母親の背景要因を十分に認識することが必要である。一方、先天梅毒届出の 12%は母親の情報が記載されておらず、現状のシステムは啓発に必要な情報が十分に収集できていない可能性があった。

先天梅毒のコントロールは公衆衛生上の優先課題である。今後も国内での先天梅毒発生状況を厳重に監視し、対策を検討していくことが重要である。

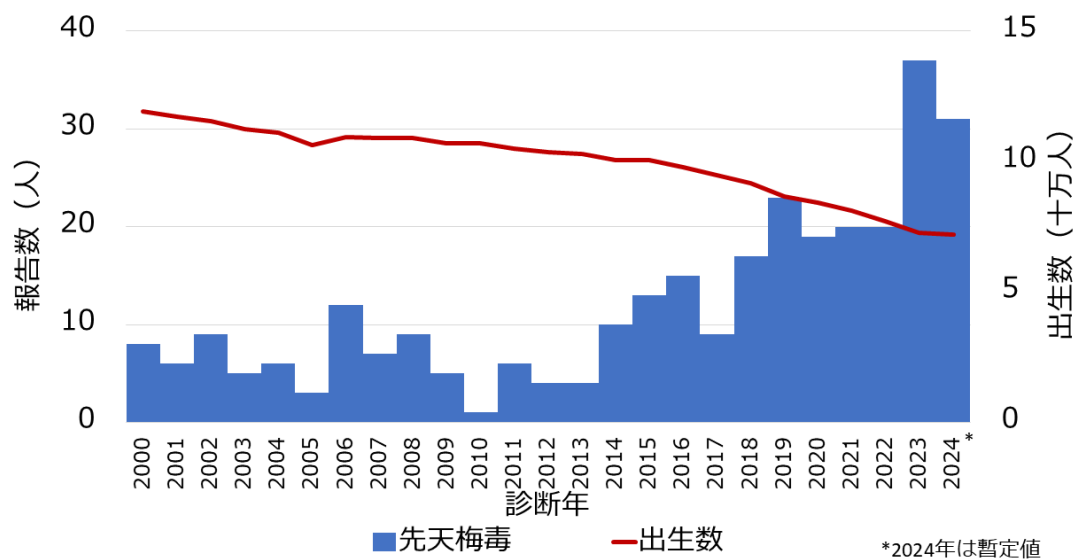


図1.感染症発生動向調査における先天梅毒の届出数の推移,2000～2024年

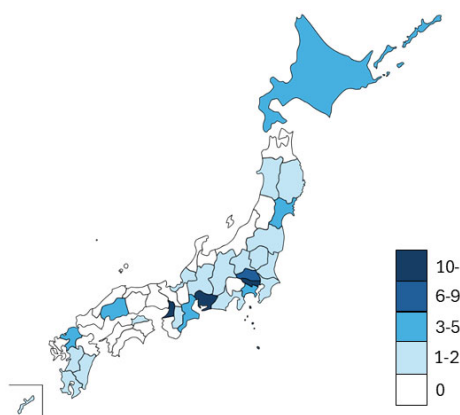


図2. 感染症発生動向調査における先天梅毒の届出都道府県の分布 (n=91, 2021年1月1日-2024年6月30日)

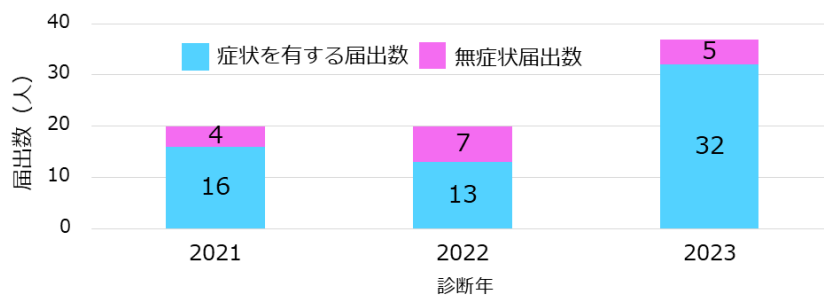


図3. 感染症発生動向調査における先天梅毒の届出に占める無症状症例の割合の推移 (2021年～2023年,n=77)

表1. 感染症発生動向調査における先天梅毒の届出症例の基本情報（n=91,2021年1月1日-2024年6月30日）

	人数	割合
年齢		
0歳0か月	85	93%
0歳1か月	3	3%
0歳2か月	2	2%
2歳0か月	1	1%
性別		
男	41	45%
女	50	55%
症状		
無症状	18	20%
有症状	73	80%
肝脾腫	35	48%
血小板減少	22	30%
表皮剥離	11	15%
丘疹性梅毒疹	9	12%
DIC	9	12%
水疱	9	12%
骨軟骨炎	8	11%
貧血	7	10%
肝機能障害	7	10%
腹水	6	8%
肺炎	6	8%

表2. 感染症発生動向調査における先天梅毒の届出症例の合致基準の分布（n=91, 2021年1月1日-2024年6月30日）

	合致 届出数	割合
ア：母体の血清抗体価に比して、児の血清抗体価が著しく高い場合	13	14%
イ：児の血清抗体価が移行抗体の推移から予想される値を高く超えて持続する場合	0	0%
ウ：児のT. pallidumを抗原とするIgM抗体陽性	45	49%
エ：早期先天梅毒の症状を呈する場合	70	77%
オ：晩期先天梅毒の症状を呈する場合	0	0%
その他	3	3%
注）アのみが4例（4%）、ウのみが14例（15%）、エのみが32例（35%）		※重複あり

表3. 感染症発生動向調査における各項目の記入割合（n=91, 2021年1月1日-2024年6月30日）

	割合	記載有/全症例
児と母両方のカルジオリピン抗体価記載有	43 %	39/91
母のカルジオリピン抗体価記載あり	60 %	55/91
児のカルジオリピン抗体価記載あり	48 %	44/91
	割合	記載有/全症例
母親のID記載あり	64 %	58/91

注）児と母の報告から算出

表4. 感染症発生動向調査において母親の情報が書いてある先天梅毒の届出の割合
(n=91, 2021年1月1日-2024年6月30日)

母の情報の種類	母ID届出の 情報を含む		児届出の 情報のみ	
	届出数	割合	届出数	割合
母の情報あり	80	88%	80	88%
母のIDの有無	58	64%	58	64%
妊婦検診受診有無	16	18%	10	11%
母の治療歴	27	30%	11	12%
出産週数	20	22%	12	13%
飛込み・墜落分娩	5	5%	3	3%
母の届出有無*	65	71%	7	8%
性風俗産業従事歴	34	37%	3	3%
母の他の性感染症の合併	50	55%	15	16%

*母親の届出有無に関する記載があった届出

参考文献

1. 国立感染症研究所. 感染症発生動向調査における近年の梅毒の動向 —2023 年第 1 週～第 39 週診断例を中心に—. 国立感染症研究所 病原体検出情. 2023. 44; 198-200.
Available from: <https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/iasr/44/526/article/100/index.html> [Accessed 14 Oct 2025]
2. 国立感染症研究所. 先天梅毒の届出に関する手引き. 2019 年 2 月 5 日現在. Available from: <https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou11/pdf/01-05-11-3-c.pdf> [Accessed 14 Oct 2025]
3. 金井瑞恵、他. 先天梅毒児の臨床像および母親の背景情報に関する研究報告（2016～2017 年）. 国立感染症研究所 病原体検出情報. 2018. 39; 205-6.: Available from <https://id-info.jihs.go.jp/niid/ja/syphilis-m/syphilis-iasrd/8437-465d03.html> [Accessed 14 Oct 2025]